

令和7年8月 教育委員会定例会（意見交換）

開催日時：令和7年8月22日（金）

テーマ：家庭の教育力の向上について

【意見交換等】

○教育長

第3期近江八幡市教育大綱の策定について、定例の意見交換の場を持たせていただきたいと思います。

本日の部長会において、第2回の総合教育会議を受けて、提案された教育大綱の素案を各部の部長に意見照会するという説明があった。今後、そのたたき台に関して各部の意見が提出されると思う。それを受けて教育大綱の案として、その後市民に対してご意見を伺う。そういうステップに入っていくことになる。そして、総合教育会議については、10月23日に第3回目を行う。そのようなスケジュールについても、各部長に説明されたということをご報告申し上げます。

そういう状況も受けて、この段階において委員の皆様から教育大綱の策定に関してご意見等があれば賜りたい。

○大更委員

子どもたちの意見聴取はどのようになるのか。総合教育会議でも、子どもたちの意見聴取については、なかなか難しいという話が出ていたので気になった。

○教育長

あの後、特段事務局の方から説明はいただいているが、今回提案されたやり方で進んでいくのだろうと私は認識している。

提案によると生涯学習課がやっている人権ベースの高校生までを対象にした意見照会のようなものをベースにして把握するということが一つあったように思う。

それ以外に直接聞くようなものではなかったように思うが、そこから何か一歩踏み出したような事務局の改善案はまだ聞こえてきていない状況である。

今度は第3回の会議になるので、市民のご意見も入ってくる。そこで「もっと子どもの意見をしっかり聞くべきである」等のご意見があれば、またそのあたりを検討する必要があるかと思うが、それ次第ではないか。

○教育長

ご意見がないようであれば、私の方から話題提供をさせていただきたい。

地域の教育力や家庭の教育力ということについては、今までからの教育大綱でもうたわれており、今回の改訂中の教育大綱のたたき台においても、その重要性はしっかりと明記されていると思っている。ただ、これまでからもそうだが、どうやって地域の教育力を高めていくのか、その施策は一体何なのか、その施策はどこが実施するのか、あるいは家庭の教育力を向上するために、どういった施策を打つのか、その施策を実施するのはどの部局なのかというようなことが未確定なままに、その目標だけが示されているようなところがあると私は感じている。もちろん教育大綱であるので、具体的な施策をどうこういうものではないが、ただ、教育大綱というものは、市長部局も教育委員会部局も包含したものであるもので、例えば、市長部局も教育委員会も連携して、そういう地域の教育力、家庭の教育力の育成に取り組んでいくという大きな合意は、何か教育大綱の中にある必要があるのではないかと私は思い始めている。

もちろん教育委員会も地域の教育力の向上に連携協力すべきだと考えているが、そのような中で、家庭の教育力の向上について、もっと教育委員会が携わっていくべきではないかと思っている。我々は、学校教育のことをメインに考えてしまう部分があり、学校教育で家庭教育のところに携わっていくのは、かなりハードルが高いというように思いがちで、もうそこで諦めてしまうところが今までであったように思うが、教育委員会には、学校教育だけでなく、社会教育もあり生涯学習もあるわけで、社会教育や生涯学習というのは、全ての市民を対象に、教育学習を支援していくという分野であるので、そういう分野を通じて家庭の教育力を高めるために、何かしっかりとした施策を打ち込んでいけないかと私としては思っている。

もちろん今年度見直した教育大綱ができ上がると、来年度は私たちの方の教育振興基本計画の見直しに入るわけで、そこにはしっかりとした、今私が申し上げたような取組を組み入れていく必要があると考えている。そのためにも、来年度に向けて、そういう取組を教育委員会で具体的に準備をして、また来年度の教育基本方針の重点施策としても掲げていってはどうかと思いかけているが、そのようなことについて、委員の皆さんのご意見をいただければと思う。

○大更委員

総合教育会議のときに、学校教育として学びの力をつけていくのは必要なことだと思うが、生涯学習や社会教育という部分が本市はとても弱いという話をしていた。

それこそ生涯学習センター的な部分というのが、今後とても重要になってくるのではないかと。まちづくり協議会であるとか、地域の公民館のようなと

ころであるとか、自治会等を中心にやっているような気がするが、本当は教育委員会が社会教育や生涯学習をもう少し押し進めて、コミュニティセンターやまちづくり協議会等を統括するような、そういう組織であってほしい。中央公民館という組織があるというものの、なかなか厳しい部分があるので、それであれば今度教育委員会が新しい庁舎に入って、学校教育課もそれから生涯学習課も含めて、とても大きな教育のフロアとして活用するのであれば、その辺の組織も含めてもう少し強化、連携ができるような組織づくりを進めるべきではないかなと思う。これまでは子どもたちをメインに置いて学校教育も含めて進めてきた部分を、もう少し広げた方がいいのではないかなと思う。

○重森委員

大更委員がおっしゃることは、もったもであると思う。みんな大事で、「家庭の力や地域の力をもっと押し上げていこう」というのは、理想では言えるが、やはりそこに力を注げるような人と組織をきちっと充てないと、いつまでたっても「大事だよ」で終わってしまいそうな気がするので、その本気度を示すという部分を、教育委員会の中からも発信できるような仕組みができればいいかなと思う。

○西田委員

教育大綱に出てくるものは、おそらく物事によっては当然一つの課だけで解決するものもあれば、そうではなくて、例えば家庭にも関わってもらわなければならないこと、生涯学習課に関わってもらわなければならないこと、学校教育課に関わってもらわなければならないことなど、たくさんあると思うので、そこを連携して、それぞれがそれぞれの役割を担っていく、責任を果たしていくことで、教育大綱の目的に向かっていけるのではないかなと思う。

○圓山委員

家庭での教育力について、いつも思うのだが、例えば道徳心や、しつけ、例えば掃除一つにしても、雑巾の絞り方など、「それも家で教わってきていないのか」と思うことが多く、それを先生が丁寧に教えている。「何でも学校に行って学校で習えばいい、となると、先生も大変だな」といつも思っている。学校に任せきりにならないように、家庭でもしっかり教育できるように、何と言えいいか分からないが、そういう家庭での教育を何とかするようなことができないかなと思う。

○教育長

おっしゃっていただいたように、本当に家庭の教育力を高めるというのは、どういう分野に関して、どのように施策としてできるのかというところが課題であると思う。

私が今ぱっと思いつくのは、スマートフォンの正しい使い方。そういうものをしっかりと普及させることによって、子どもの家での読書時間の確保にもつながるし、早く寝るということにもつながると思うし、それから家族の対話の確保にもつながる。家族それぞれが1台ずつスマートフォンを持って、別々の画面を見ながら、そこには子どもが近くにいるのに、子どももゲームをして画面を見ていて、家族の対話がないという場面に時々出くわすが、せっかく同じ時間と空間、家族がそこにいるのに対話がほとんどされないというようなこともひっくるめて、若い世代の、幼稚園・保育園の保護者、小学校1年生・2年生の保護者と子どもたちを対象に、例えばいろいろなワークショップを開いて、楽しく遊んでもらいながら、その中に「スマートフォンの裏技が教えてもらえる」というようなことにしておいて、実際は「適正な使用をすると、こんなにメリットありますよ」というような、何かそういう仕掛けのようなものを考えたらどうかと思う。

今おっしゃっていただいたように、雑巾の絞り方、掃除の仕方等を親も知らないから子どもも知らない。一緒になって「掃除の仕方をみんなで楽しく学びましょう」というようなワークショップ等が頭に浮かぶ。

実際これを施策化していこうと思っても、そこがはっきりしてないと施策の打ちようがないので、このためには十分な準備が必要で、あらゆる人たちのご意見を聞きながら準備を進めていくことが必要になると思う。それを実施するに当たっては、やはり教育委員会が中心になってやるにしても、市長部局と連携し、特に福祉部門は子どもを授かった時点から保護者の方と関わりを持っておられるし、子どもが生まれる段階から死ぬ段階まで、一つの 一気通貫で見た中で、そういう家庭力の向上を連携してやることができないかなと思う。

○教育長

ほかにご意見はよろしいか。

それでは、総合教育会議で議論するに当たって、今後もこの定例教育委員会ごとに自由な意見交換をさせていただきたいと思っているので、よろしくお願い申し上げます。